

第2次黒部市立図書館サービス計画(令和6年度～9年度) 概要版

第1章 計画の見直しに当たって

●策定の趣旨

第1次黒部市立図書館サービス計画では、「旧黒部館」と「宇奈月館」の2館が一体となり、それぞれが役割を果たし効率的に活用することとしていました。

第2次サービス計画では、2館を有する黒部市立図書館の課題の把握と分析を行い、その解決に向けた基本的方針を定めて具体的なサービスと指標及び目標の設定を行うことで、より効果的な図書館運営を実施できるよう計画しています。

●位置付けと計画期間

市の最上位計画である「第2次黒部市総合振興計画」、教育に関する部門計画の「黒部市教育大綱」の下、毎年度更新している「黒部市教育の方針」や総務管理部門の個別計画である「くろべ市民交流センター管理運営実施計画」との整合性を図り、図書館運営の基本的な方向と具体的な方策を明らかにするものとしています。

計画期間は、総合振興計画に周期を合わせることを基本としていましたが、第1次サービス計画はあお一よ図書館開館に合わせ、令和5年度までの4年間の計画としたことにより、第2次サービス計画は、第2次総合振興計画(後期)と終期を合わせ、令和9年度末までの4年間の計画とします。

第2章 現状と課題

過去の統計データから見た利用状況については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて概ね減少し、この終息とともに持ち直してきているものの、未だ以前の数値には戻っていません(旧図書館データ)。

蔵書の状況については、図書の集中整理期間を令和7年度までと定め、除籍とのバランスを考えつつ順調に受け入れを進めています。

各施設の状況を踏まえ、①2館体制における各館の連携と機能融合の不足 ②歴史民俗資料館との連携 ③まるごと黒部の更なる充実とPR ④収蔵スペース不足等の課題を整理しました。

第3章 図書館のサービス展開

●基本的な考え方

あお一よ図書館は、中央館としてサービスの中核機能を持ち、2館が一体となって1つの図書館となるよう、運営や計画の企画、立案、管理を行うとともに、資料については重点収集分野をおさえて幅広い分野の資料をそろえます。宇奈月図書館は、地域館として地域住民のニーズの高い資料を中心にそろえます。

あお一よ図書館は、交流センターの各機能が連携する「クロスアシスト事業」に積極的に取り組み、相乗効果を生み出す機能融合事業に取り組みます。また、資料展示等により歴史民俗資料館と連携していきます。

各館の地域館としての役割に、主に海側と山側のエリアをそれぞれ担当し、その地域の特徴を反映した資料を収集します。また、その見せ方として「まるごと黒部コーナー」をそれぞれ設置します。

地元黒部に関する地域資料を中心に、黒部らしいテーマについて調査研究をするための資料を2館で調整して収集し、それぞれに特色を持ったコレクションとなるよう構成し、地域の子どもたちに郷土愛を育むふるさと教育につなげます。

まるごと黒部(黒部編)	まるごと黒部(宇奈月編)
収集保存担当:あおーよ図書館	収集保存担当:宇奈月図書館
ジオパーク、名水、黒部川、富山湾、水文学、観光、鉄道(黒部峡谷鉄道以外)、新幹線、流水客土、地場産業、ファスナー、アルミ・サッシ産業の発達、黒部の民俗・風習・伝統文化、黒部の偉人・作家・ゆかりの人物・名誉市民、北方領土、北海道との結びつき、姉妹都市	山岳、登山、電源開発、ダム、温泉、黒部川、黒部川扇状地、鉄道(黒部峡谷鉄道)、橋、宇奈月の偉人・作家・ゆかりの人物・名誉市民

●図書館の目指すところ

(1)市民の文化力の向上に寄与する図書館

- ①市民の知的好奇心や本との出会いを楽しむ……………多種多様なイベント開催
- ②子どもたちの郷土愛を育みふるさと教育につなげる……………子育て支援センターとの連携
- ③市民の文化や歴史を学ぶ活動に役立つ……………「まるごと黒部」の充実

(2)誰もが気軽に利用でき、憩いの場のある図書館

- ①市民の憩いやくつろぎの場に役立つ……………幅広い分野のイベント開催による利用者層の拡大
- ②市民に開かれた図書館運営 ……………交流センター内連携によるクロスアシスト事業の実施
- ③クロスアシスト事業による高付加価値サービス提供…他施設との連携によるイベント等の展開

(3)時代と共に成長する図書館

- ①市民の暮らしに役立つ……………電子書籍導入について研究を進める
- ②市民の課題解決に役立つ……………市役所各課との連携による各課紹介コーナーの充実

第4章 蔵書計画

定められた「収集方針」「資料管理等基準」により、蔵書の魅力ある状態を維持し、発展させるため、蔵書管理(メンテナンス)が重要です。また、「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」(平成 24 年 12 月 19 日 文部科学省告示第 172 号)の目標基準例を基に、施設規模を決定し、蔵書数は「類似規模の図書館」を参考に、あおーよ図書館 22 万冊、宇奈月図書館 5 万冊と設定します。あおーよ図書館については現在のフロアスペースを最大限活用し、少なくとも50年程度の使用を基本に考え、蔵書の数量的目標を定めます。さらに、あおーよ図書館の開架冊数は 13 万冊を目標値とし、蔵書全体の 60%を意識しながら蔵書の更新を行うこととしています。

	現在R4年度	R8年度末	R54年度末
黒部	153,900冊	179,700冊	223,100冊
宇奈月	50,000冊	50,000冊	50,000冊
計	203,900冊	229,700冊	273,100冊

(蔵書数シミュレーション)

第5章 計画の推進のために

サービス計画に実効性を持たせるため、学校教育、社会教育、家庭教育推進の関係者、学識関係者、図書館利用者と図書館行政関係者とが連携・協力して推進体制を整備し、計画進行管理を定期的に行うことが重要です。

このことから、計画推進には図書館単体でなく上記関係者で構成する「黒部市図書館協議会」と図書館行政関係者とが連携・協力して推進していくこととし、その進捗状況について毎年度点検を行うこととします。

評価指標	H30年度末	R4年度末 (現状値)	R8年度末 (目標値)
入館者数	103,472	82,177	138,000人
登録者数	10,519人	9,578人	15,000人
実質登録者数	3,518人	4,164人	5,400人
貸出冊数	201,206冊	197,303冊	278,000冊
貸出密度(※)	4.88	4.96	7.50
予約受付件数	17,009件	18,392件	25,000件

(※)貸出密度 = 貸出の冊数 ÷ 定住人口
(図書館サービスを評価する指標)